

第117回定時株主総会招集ご通知に関するの インターネット開示事項

連 結 注 記 表

個 別 注 記 表

(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

株式会社 NIPPO

連結注記表および個別注記表につきましては、法令および当社定款第18条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス<http://www.nippo-c.co.jp/>）に掲載することにより株主のみなさまに提供しております。

連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

(1) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社の状況

連結子会社の数

167社

主要な連結子会社の名称

大日本土木株式会社

長谷川体育施設株式会社

日鋪建設株式会社

株式会社MECX

当連結会計年度より、東瀝青建設株式会社他32社を重要性が増したこと等により連結の範囲に含めております。

② 非連結子会社の状況

主要な非連結子会社の名称

テムコドームジャパン株式会社

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社はいずれも小規模であり、各社の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）および利益剰余金（持分に見合う額）等は、連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

(2) 持分法の適用に関する事項

① 持分法を適用した非連結子会社および関連会社の状況

持分法適用の非連結子会社

3社

または関連会社の数

主要な持分法適用の会社の名称

JXエンジニアリング株式会社

津田沼第2住宅PFI株式会社

② 持分法を適用していない非連結子会社および関連会社の状況

主要な持分法非適用の会社の名称

テムコドームジャパン株式会社

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない非連結子会社および関連会社は、当期純損益（持分に見合う額）および利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社は芦ノ湖スカイライン株式会社の12月31日とほか4社で、いずれも決算日が異なります。連結計算書類の作成にあたっては、芦ノ湖スカイライン株式会社については同決算日現在の計算書類を、その他連結子会社については連結決算日現在で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しています。ただし、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

上記以外の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

(4) 会計方針に関する事項

① 有価証券の評価基準および評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

その他の有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

なお、組込デリバティブを区分して測定することができない複合金融商品については、全体を時価評価し、評価差額を当連結会計年度の損益に計上しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法

② デリバティブ等の評価基準および評価方法

デリバティブ

時価法

③ たな卸資産の評価基準および評価方法

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

未成工事支出金

個別法

たな卸不動産

個別法

その他たな卸資産

製品は移動平均法、資材は主として移動平均法、機材は主として個別法

④ 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

(リース資産を除く)

主として定額法

なお、主な耐用年数については、以下のとおりです。

建物および構築物 2～64年

機械装置および運搬具 2～14年

無形固定資産

(リース資産を除く)

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年以内）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法によっております。

⑤ 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

金銭債権等の貸倒による損失に備えて、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対する賞与支給に備えて、当社および一部の連結子会社は、賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

完成工事補償引当金

完成工事に関するかし担保およびアフターサービス等の支出に備えて、過去の実績を基礎とした見積補償額に基づいて計上しております。

工事損失引当金

当連結会計年度末における手持工事のうち損失の発生が見込まれるものについて、将来の損失に備えて、その損失見込額を計上しております。

独占禁止法関連損失引当金

独占禁止法に関連した課徴金および契約違約金等の支払に備えるため、関連損失の発生可能性を勘案し、損失見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えて、一部の連結子会社は、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

- ⑥ 退職給付に係る会計処理の方法
退職給付見込額の期間帰属方法
数理計算上の差異および
過去勤務費用の費用処理方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により費用処理をしております。数理計算上の差異は、主として各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として12年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理をすることとしております。
- ⑦ 収益および費用の計上基準
完成工事高および完成工事原価
の計上基準
当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗度の見積りは原価比例法）を適用し、その他の工事については工事完成基準を適用しております。
ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準
リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。
- ⑧ のれんの償却方法および償却期間
発生年度において実質的判断による年数の見積りが可能なものはその見積り年数で、その他については5年間で均等償却しております。
- ⑨ 消費税等の会計処理
消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 129,560百万円

(2) 担保に供している資産および担保に係る債務

担保に供している資産

建物及び構築物	107百万円
土地	540百万円
投資有価証券	12百万円
長期貸付金	2百万円
合計	662百万円

上記の他、PFI事業を営む連結子会社が金融機関より調達したノンリコースローン（短期借入金79百万円、長期借入金1,363百万円）に対するPFI事業資産の額は、1,783百万円であります。

また、上記のうち、連結処理により相殺消去されている連結子会社株式74百万円、匿名組合出資金406百万円を担保に供しております。

担保付債務は次のとおりであります。

長期借入金（1年以内に返済予定のものを含む） 333百万円

(3) 保証債務

(単位：百万円)

保証先	金額	内容
従業員	11	金融機関からの借入金

3. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当連結会計年度末の発行済株式の種類および総数
普通株式

119,401,836株

(2) 配当に関する事項

① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年6月23日 定時株主総会	普通株式	4,168	35.00	2017年3月31日	2017年6月26日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

2018年6月22日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次の通り提案しております。

〈イ〉 配当金の総額 4,763百万円

〈ロ〉 1株当たり配当額 40.00円

〈ハ〉 基準日 2018年3月31日

〈ニ〉 効力発生日 2018年6月25日

なお、配当原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

4. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等または親会社のグループ金融制度の利用に限定しており、資金調達については銀行借入によっております。デリバティブは、将来の為替の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行っておりません。

② 金融商品の内容およびそのリスクならびにリスク管理体制

営業債権である受取手形・完成工事未収入金等および電子記録債権は、顧客の信用リスクを有しております。当該リスクに関しては、与信管理規程に従い、与信管理委員会等で定期的に残高等の管理を行い、主要取引先についての信用状況を把握する体制をとっております。連結子会社についても、当社の管理規程に準じた、同様の管理を行っております。

投資有価証券である株式は、主に営業上の関係を有する企業の株式であります。市場価格の変動リスクを有しており、担当部門において、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等の把握を行っております。

短期貸付金は、主に前述のグループ金融制度にて資金運用を行ったものであります。

営業債務である支払手形・工事未払金等および電子記録債務は、そのほとんどが6ヶ月以内の支払期日であります。長期借入金は、主にPFI事業を営む連結子会社が金融機関より調達したノンリコースローンであります。資金調達に係る流動性リスクについては、当社グループでは、適時に資金繰計画を作成・更新するなどの方法により、当該リスクの管理を行っております。

デリバティブ取引は、外貨建金銭債権債務の為替変動リスクを回避し、安定的な利益の確保を図る目的で利用しております。取引に関しては、取引権限を定めた社内規程に従い行っております。なお、デリバティブの利用にあたり、信用リスクを軽減するため、大手金融機関に限定して取引を行っております。

③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2018年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。(注2)を参照)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金預金	53,337	53,337	—
(2) 受取手形・完成工事未収入金等 貸倒引当金※1	137,398 △298		
	137,100	137,143	43
(3) 電子記録債権 貸倒引当金※1	6,931 △15		
	6,916	6,916	—
(4) 短期貸付金 貸倒引当金※1	71,464 △155		
	71,309	71,309	—
(5) (投資)有価証券	36,911	36,911	—
資産計	305,574	305,617	43
(6) 支払手形・工事未払金等	85,112	85,113	1
(7) 電子記録債務	28,156	28,156	—
(8) 長期借入金※2	1,783	1,690	△93
負債計	115,052	114,961	△91
デリバティブ取引※3	△30	△30	—

※1. 受取手形・完成工事未収入金等、電子記録債権および短期貸付金に対応する一般貸倒引当金を控除しております。

2. 1年内返済長期借入金（流動負債）は、長期借入金に含めて表示しております。

3. デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法およびデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金預金

概ね短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形・完成工事未収入金等

時価については、一定の期間毎に区分した債権ごとに債権額を回収までの期間および信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっております。

(3) 電子記録債権

概ね短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 短期貸付金

時価については、一定の期間毎に区分した債権ごとに債権額を回収までの期間および信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっております。

(5) (投資)有価証券

時価については、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

負 債

(6) 支払手形・工事未払金等

時価については、一定の期間毎に区分した債務ごとに債務額を支払までの期間により割り引いた現在価値によっております。

(7) 電子記録債務

概ね短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(8) 長期借入金

時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、時価の算定方法は先物為替相場によっております。

(注2) 非上場株式（連結貸借対照表計上額10,562百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(5) (投資)有価証券」には含めておりません。

5. 賃貸等不動産に関する注記

(1) 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社および一部の子会社では、東京都その他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸オフィスビル、賃貸商業施設、賃貸住宅、賃貸駐車場等を所有しております。

なお、賃貸オフィスビルの一部については、当社および一部の子会社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

(2) 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額			当期末の時価
	当期首残高	当期増減額	当期末残高	
賃貸等不動産	22,680	1,364	24,045	24,158
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	2,891	△70	2,821	3,816

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額および減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度末の時価は、重要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額、その他の物件については主として一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づいて自社で算定した金額であります。

6. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	2,638円91銭
1株当たり当期純利益	223円45銭

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 有価証券の評価基準および評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

子会社株式および関連会社株式

移動平均法による原価法

その他の有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準および評価方法

評価基準は、原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

販売用不動産

個別法

製品

移動平均法

未成工事支出金

個別法

開発事業等支出金

個別法

材料貯蔵品

資材は移動平均法、機材は個別法

(3) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定額法

（リース資産を除く）

当社は、全ての有形固定資産の減価償却方法について定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数については、以下の通りです。

建物および構築物 2～64年

機械装置および運搬具 2～14年

無形固定資産

定額法

（リース資産を除く）

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年以内）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(4) 引当金の計上基準

貸倒引当金

金銭債権等の貸倒による損失に備えて、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対する賞与支給に備えて、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

完成工事補償引当金

完成工事に関するかし担保およびアフターサービス等の支出に備えて、過去の実績を基礎とした見積補償額に基づいて計上しております。

工事損失引当金

期末手持工事のうち損失の発生が見込まれるものについて、将来の損失に備えて、その損失見込額を計上しております。

独占禁止法関連損失引当金

独占禁止法に関連した課徴金および契約違約金等の支払に備えるため、関連損失の発生可能性を勘案し、損失見込額を計上しております。

退職給付引当金

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により費用処理しております。数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理をすることとしております。

(5) 収益および費用の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗度の見積りは原価比例法）を適用し、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

(6) 消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(7) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(8) 表示方法の変更

前事業年度において「流動負債」の「その他」に含めておりました「関係会社預り金」につきましては、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。

2. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額	121,551百万円
(2) 担保に供している資産	
投資有価証券	1百万円
関係会社株式・関係会社出資金	480百万円
長期貸付金	2百万円
合計	484百万円

上記の資産のうち、関係会社株式・関係会社出資金については、関係会社の借入金1,575百万円の担保に供しております。また、投資有価証券、長期貸付金については、当社の出資先であるPFI事業会社と金融機関との間で締結した貸付契約に基づく債務の担保に供しております。

(3) 保証債務

(単位：百万円)

保証先	金額	内容
従業員	11	金融機関からの借入金
芦ノ湖スカイライン株式会社	132	金融機関からの借入金
計	144	

(4) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権	32,076百万円
長期金銭債権	1,670百万円
短期金銭債務	28,272百万円
長期金銭債務	1,072百万円

3. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高は次のとおりです。

営業取引	
売上高	34,813百万円
仕入高	29,845百万円
営業取引以外の取引高	6,514百万円

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度の末日における自己株式数

普通株式

314,804株

5. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は次のとおりです。

(繰延税金資産)

賞与引当金 945百万円

工事損失引当金 47百万円

販売用不動産評価損 927百万円

未払事業税 226百万円

貸倒引当金 252百万円

退職給付引当金 821百万円

減損損失 5,904百万円

その他 1,786百万円

繰延税金資産小計 10,911百万円

評価性引当額 △7,823百万円

繰延税金資産合計 3,088百万円

(繰延税金負債)

その他有価証券評価差額金 △8,770百万円

固定資産圧縮積立金 △513百万円

その他 △133百万円

繰延税金負債合計 △9,418百万円

繰延税金負債の純額 △6,329百万円

6. リースにより使用する固定資産に関する注記

貸借対照表に計上した固定資産のほか、リース契約により使用している重要な固定資産として、建設機械があります。

7. 関連当事者との取引に関する注記

兄弟会社等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の子会社	JXTGエネルギー(株)	—	当社は工事を受注し、アスファルト他の材料を購入している。	工事の受注等	4,980	完成工事未収入金	2,515
	JXファイナンス(株)	—	グループ金融制度による資金運用を行っている。	資金の貸付 受取利息	68,919 32	短期貸付金	65,702

取引条件および取引条件の決定方針等

- ①取引金額については、一般の取引条件と同様に決定しております。
- ②貸付金の利率については、市場金利を勘案し合理的に決定しております。
- ③上記の取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には短期貸付金を除き消費税等が含まれております。
- ④資金の貸付に係る取引金額は、期中の平均残高を記載しております。

8. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	2,220円18銭
1株当たり当期純利益	134円87銭